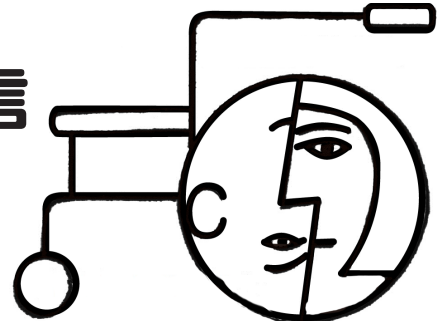


2021年6月17日 NO.124号

# 障害児・者サークル通信

発行：性教協★障害児・者サークル事務局  
〒591-8046 大阪府堺市北区東三国ヶ丘町5-2-10 千住方  
E-mail seikyokyo\_kansai@yahoo.co.jp  
HP <http://shogaiji.seikyokyo.org/>



## ●《特集》

「親離れ、子離れ」を考えてみよう！ Part1	1
私の人生の主人公は私	2
めざせ「親子の自立」今も試行錯誤中	4
多様な親子・人間関係一学びながら、受け止める力を	5
親離れ・子離れ研究会に参加して	6
「子の自律・親の自律」をともに考える	8
「親ばなれ子ばなれ」問題	10
連載その1「親ばなれー子ばなれ」ーとりえあえず おもいつくまま	12

●お知らせ	14
-------	----

## 《特集》「親離れ、子離れ」を 考えてみよう！ Part 1

親が子を心配するのは当たり前 生まれた時から見ているものね  
その子が親を心配するのも当たり前 無限の愛情で育てられたからね  
でもどちらも違う人間 私に障害あるのは親のせいではないし  
親が世の中に申し訳無さ気にサポートしてくれるのは  
ありがたいけれど 少し違うかな？ 私は人にもお願いもできるし  
そう導いてくれたのは両親だから「死ぬまでみる」なんて 私その後困っちゃう！  
私が他の人たちと喜んだり傷つけたりしながら どうにか生きられるの見届けてほしいな  
だってお互い付属品じゃないし だから私のご飯 自分の唇で冷まさないでね  
でもやっぱり時が巡って 生まれ変わっても 同じ両親のところに生まれたい  
私賢くて 元気に走れるかな？ 父さんは人のいいままで  
母さんはもっと自分のために楽しめる人になってね

前回の会報に掲載された、さわさけいこさんの詩です。明るいトーンなのですが、中身はなかなか重いものを感じます。自分の生活を自分で決めたいと考え始めた障害のある青年から「親が無理だといっている」というのはよく聞く話です。最近受けている相談を紹介します。教え子のお母さんからです。グループホームで生活していたその教え子が、数年前から「一人暮らし」を望むようになり、支援の方とも相談しその方向で進み始めたところ、近くに住む親せきから猛反対に合いました。お母さんは体調が不安定なため親せきを頼って生活しているため、無視することもできず困っての相談でした。このように障害者が自分の生活をつくりだしていく時に、親子、親せきなどとの関係が大きく影響する事例にはくり返し出合ってきました。

改めて学び合いたい課題と考え、今号では「親離れ、

子離れ」を特集することにしました。

障害当事者、保護者、支援者など6名の方に執筆をお願いし、会報に連載をお願いしている木全和巳さんに、その読み解きをお願い致しました。6つの投稿はどれも貴重な内容となっており、木全さんから執筆頂いた方々とのやり取りも含め連載とする方が深められるとのご提案もあり、今回は「パート1」としました。今後紙面の一部、時には再度の特集というような形で取り上げていくつもりでいます。様々な事例を基に、多様な実態や考え方を学び合うことを大切にしたいと考えています。そのつもりで今後も親子、さらには一回り拵げた人間関係を掘り下げ学んでいきたいと思えます。皆さまからの感想・意見などもお寄せいただけるとありがたいです。

(編集委員・日暮かをる)